



Omisoka (New Year's Eve in Japan) : 授業アイデア (簡単版)

大晦日をテーマにした英語の授業アイデア 5本

Class _____ No. _____ Name _____

1. 年越しそばの由来を英語で説明しよう

中学・20分

🌀 諸説ある由来を、Some say ～. Others say ～. の形で説明できるようにする。

1. 本文第2段落の Some say / Others say の文を確認する。
2. 年越しそばの4つの説（断ち切る・長生き・金運・そばにいる）をカードで配る。
3. ペアで一つずつ英語にして、Some say soba ... の文を作る。
4. どの説がいちばん好きか、理由をつけて発表する。

2. 世界の大みそかツアーガイド

高校・45分

🌀 国別くらべの情報を使い、英語でツアーを紹介する。

1. compare の表から、グループで1か国を担当する。
2. その国の大みそかを In ～, people ～. の形で3文にまとめる。
3. ツアーガイドになりきって1分で紹介する。
4. 聞き手は行ってみたい国に投票し、理由を一文で書く。

3. 108の煩惱、英語で何を手放す？

英会話教室・20分

🌀 今年の反省と来年の目標を英語で話す。

1. 除夜の鐘の意味を英語で確認する (let go of desires) 。
2. This year, I want to let go of ～. の文で、手放したい習慣を言う。
3. Next year, I will ～. で来年の目標を言う。
4. 全員の発表の後、一人1回ずつ鐘の音（手をたたく）で締めくくる。

4. カウントダウンで数字マスター

小学校・15分

🌀 英語の数字を楽しく覚える。

1. Ten, nine, eight... とカウントダウンを練習する。
2. スペインのブドウ12粒にちなんで、1から12まで英語で数えながら紙のブドウをはる。
3. 最後に Happy New Year! と全員で言う。

5. 「創られた伝統」を考える

大学・60分

🌀 除夜の鐘や紅白の歴史から、伝統とメディアの関係を論じる。

1. advanced の英文を読み、ラジオと除夜の鐘の関係を要約する。
2. 紅白歌合戦が正月番組から大晦日の番組になった経緯を調べる。
3. 「伝統は古くなければ価値がないか」を英語で討論する。
4. 身近な「意外に新しい伝統」の例を一つ挙げ、短いレポートにまとめる。



1. 年越しそばの由来を英語で説明しよう

授業手順書（詳細版）／対象：中学／20分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

年越しそばの由来には諸説あることを知り、Some say _____. Others say _____ の形で2つ以上の説を英語で説明し、好きな説を理由つきで言う。

準備

- このサイトの英語ページ本文の第2段落のプリントと音声
- 4つの説のカード（①切れやすいので一年の災いを断ち切る ②細く長いので長生き ③金銀の細工師が散らばった金粉をそば粉の団子で集めたので、お金が集まる ④「そば」と「側」をかけて、来年も家族がそばにいられるように）
- 語句のヒントカード（cut away bad luck / a long life / collect gold / stay by your side）
- 年越しそばの写真

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	3	年越しそばの写真を見せ、「大みそかにそばを食べるのはなぜ？」と聞く。何人かに日本語で予想を言わせ、「実は答えは1つではない」と伝える。	年越しそばを食べる理由を予想して言う。	"What is this? Yes, toshikoshi soba." "Why do people eat soba on New Year's Eve?" "Any ideas? Japanese is OK." "In fact, there is more than one answer."
展開1	4	英語ページ第2段落の音声を聞かせ、Some say the long noodles mean a long life. Others say soba breaks easily, so it cuts away the bad luck of the year. の2文に線を引かせる。Some say _____. Others say _____ が「～という人もいれば、～という人もいる」という意味で、説が複数あるときに使えることを確認する。Nobody knows which story is true. の文も押さえる。	本文を聞き、Some say / Others say の2文に線を引いて意味を確かめる。	"Listen to paragraph 2." "Some say the long noodles mean a long life." "Others say soba breaks easily, so it cuts away bad luck." "Nobody knows which story is true."
展開2	8	4つの説のカードをペアに配る。本文にある①②に加えて、③金粉の説と④「側」の説を、ヒントカードを使って英語にさせる（Some say soba helps you collect money, because gold workers used soba dough to pick up gold dust. / Others say soba means you can stay by your family's side.）。④は日本語のしゃれなので、英語では side に言いかえて説明するとよいと伝える。	ペアで4つの説を1つずつ英語にし、Some say / Others say の文を作る。	"Here are four stories. Make an English sentence for each one." "Some say soba helps you collect money." "Story 4 is a Japanese pun. Soba also means by your side." "So, others say soba means your family will stay by your side."
まとめ	5	どの説がいちばん好きか、I like the ____ story because ____ の形で数人に発表させる。最後に「どれも『～という説』で、どれが本当かは決まっていない」ことを確認する。	好きな説を選び、理由をつけて英語で発表する。	"Which story do you like best?" "I like the long life story because I want to live long." "Remember, these are all stories. Nobody knows which is true."

板書例

Why do we eat soba on New Year's Eve?

- ① Some say soba breaks easily, so it cuts away bad luck.
- ② Some say long noodles mean a long life.
- ③ Others say soba helps you collect money. (金粉を集めた)
- ④ Others say your family will stay by your side. (そば＝側)

Nobody knows which story is true.

I like the ____ story because ____.

評価のポイント

- Some say _____. Others say _____ の形で、2つ以上の説を英語で言えたか。
- 本文にない説も、ヒントを使って英語で説明できたか。
- 好きな説を、because を使って理由つきで言えたか。

つまづきへの手だて

- 文が作れない生徒には、本文の2文の1部分だけを入れ替える形で作らせる。
- ③④の説が難しい生徒には、①②の2つだけを確実に言えればよいとする。
- 発表が不安な生徒は、I like story 2. だけでもよいとする。

発展

- フィリピンでも大みそかに長い麺のパンシットを食べて長生きを願うことを紹介し、英語で1文説明する。
- 香川の年越しうどん、沖縄の沖縄そばなど地域の違いを調べ、In _____, people eat _____. の文を作る。
- 基本セット p.7 の作文（On New Year's Eve, my family usually _____）を書く。

使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第2段落）と音声
- 基本セット p.7（作文）



2. 世界の大みそかつツアーガイド

授業手順書（詳細版）／対象：高校／45分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

国別くらべの情報をを使って、担当国の大みそかを In ____, people ____ の形で3文にまとめ、ツアーガイドとして1分で紹介できる。聞き手として、行きたい国を理由つきで1文で書ける。

準備

- 記事の国別くらべの表を国ごとに切り分けたカード（スペイン・アメリカ・スコットランド・ブラジル・デンマーク・ドイツ・イタリア・フィリピン・チリ・韓国から、グループの数だけ）
- アクティビティ集 B5 国くらべの表（聞き手のメモ用）
- 投票用紙（Which tour do you want to join? / Why?）
- 世界地図（各国の位置を示す）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	英語ページ本文第1段落の In many countries, New Year's Eve is loud ... In Japan, it is often quiet. を読み、「にぎやかな国の大みそかつツアーを作ろう」と伝える。グループに1か国ずつカードを配り、地図で位置を確認する。	本文の最初の段落を読み、担当の国を地図で確かめる。	"In many countries, New Year's Eve is loud. In Japan, it is often quiet." "Today, you are tour guides." "Each group has one country. Find it on the map."
展開1	15	カードの情報を In ____, people ____ の形で英語3文にまとめさせる（In Spain, people eat 12 grapes at midnight.）。そのあと、ツアーガイドの台本（Welcome to ____! / On this tour, you will ____ / Don't forget to ____!）を作らせる。カードにある数字や年（タイムズスクエアのボール・ドロップは1907年に始まった、など）を1つ入れるよう指示する。	担当国の大みそかを英語3文にまとめ、ツアーガイドの台本を作る。	"Write three sentences. In Spain, people eat 12 grapes at midnight." "Now make a tour script. Welcome to Spain!" "Add one number or year. It makes your tour more real." "End with Don't forget to ____!"
展開2	15	各グループが1分でツアーを紹介する。ガイド役以外のメンバーは、写真や身ぶりで盛り上げてよい。聞き手は B5 の表に国名と特徴をメモする。	ツアーガイドとして1分で紹介する。聞き手はほかの国の特徴をメモする。	"Group 1, you have one minute. Welcome us to your country!" "Listeners, take notes in the table." "Great tour! Next group."
まとめ	10	聞き手に、行ってみたい国のツアーに投票させ、理由を英語1文で書かせる（I want to join the Denmark tour because I want to jump into the new year.）。いくつかの理由を読み上げ、最後に日本の静かな大みそかと比べて感想を聞く。	行きたい国に投票し、理由を英語1文で書く。日本の大みそかと比べて感想を言う。	"Which tour do you want to join? Vote and write one reason." "I want to join the Denmark tour because I want to jump into the new year." "Now think about Japan. Is a quiet New Year's Eve good too?"

板書例

World New Year's Eve Tours 🌐

Spain : 12 grapes at midnight
USA : Ball Drop in Times Square (1907~)
Scotland : Hogmanay, first-foot
Brazil : white clothes, fireworks on the beach
Denmark : jump off a chair at midnight
Philippines : long noodles for a long life
Korea : the bell rings 33 times in Seoul

In ____, people ____.
Welcome to ____! / On this tour, you will ____ / Don't forget to ____!
Vote : I want to join the ____ tour because ____.

評価のポイント

- In ____, people ____ の形で、担当国の内容を正確に3文で書けたか。
- ツアーガイドとして、1分で聞き手を引きつけて紹介できたか。
- 行きたい国を、because を使って理由つきで書けたか。

つまづきへの手だて

- 英語にしにくいグループには、国別くらべの日本語から1文ずつ訳す手順を示し、辞書を使わせる。
- 台本が書けないグループには、Welcome to ____! と In ____, people ____ の2種類の文だけでよいとする。
- 人前で話すのが苦手な生徒は、写真を見せる係や身ぶりの係にする。

発展

- 韓国の普信閣の鐘（33回）と日本の除夜の鐘（108回）を比べ、英語で2文書く。
- 南半球のブラジルやチリでは大みそかが夏であることに注目し、季節の違いを英語で説明する。
- 英語ページの discussion（Which New Year's Eve custom from another country do you want to try? Why?）でペアトークをする。

使う教材

- 記事の国別くらべの表
- アクティビティ集 B5（国くらべ）
- このサイトの英語ページ本文（第1段落）と音声



3. 108の煩惱、英語で何を手放す？

授業手順書（詳細版）／対象：英会話教室／20分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

除夜の鐘の意味（let go of desires）を知り、This year, I want to let go of _____. と Next year, I will _____. の文で、今年手放したい習慣と来年の目標を英語で話せる。

準備

- このサイトの英語ページ本文の第4段落と音声
- 除夜の鐘の写真
- 習慣の語句カード（staying up late / eating too many snacks / playing games too long / being late / forgetting things）
- 目標の語句カード（read more books / get up early / practice English every day / help at home）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	除夜の鐘の写真を見せ、英語ページ第4段落の音声を聞かせる。多くの寺で108回つくこと、108は人を悩ませる心の数（煩惱）だという説が有名で、一回ごとに1つずつ手放す（let go of）と考えられていることを確認する。ほかにも説があり、どれが正しいかは決まっていないことも添える。	本文を聞き、108回の意味と let go of の意味を確認する。	"Listen. How many times do temples ring the bell?" "Yes, 108 times. Many people believe 108 is the number of human desires." "With each sound, they try to let go of one." "Let go of means 手放す."
展開1	6	習慣の語句カードを見せ、This year, I want to let go of _____. の文を練習する。let go of のあとは名詞か ing の形になることを示す（let go of staying up late）。ペアで、自分が手放したい習慣を1つ言い合う。重すぎる話題は避け、軽い習慣を選べばよいと伝える。	手放したい習慣を1つ選び、This year, I want to let go of _____. という。	"This year, I want to let go of staying up late." "After let go of, use a noun or an ing word." "Tell your partner one small habit." "Keep it light. Snacks and games are fine!"
展開2	6	目標の語句カードを見せ、Next year, I will _____. の文を練習する。手放したい習慣とつながる目標にするとよいと伝える（let go of staying up late → I will go to bed at eleven.）。ペアで2文続けて言い合う。	来年の目標を Next year, I will _____. で言い、手放したい習慣とつながって2文続けて言う。	"Next year, I will ____." "Connect it to your habit. I will go to bed at eleven." "Say both sentences to your partner."
まとめ	4	全員が順に2文を発表する。1人の発表が終わるごとに、全員で1回手をたたいて鐘の音にする。最後に先生が Goodbye, old year. Hello, new year! と言って締めくくる。	2文を発表し、一人ずつ鐘の音（手をたたく）で締めくくる。	"Let's share. After each person, clap once like a temple bell." "This year, I want to let go of being late. Next year, I will get up early." "Goodbye, old year. Hello, new year!"

板書例

Joya no Kane: 108 rings 🛎
108 = human desires (煩惱) ← 有名な説
With each sound, let go of one.

This year, I want to let go of _____.
(staying up late / eating too many snacks / being late)
Next year, I will _____.
(go to bed at eleven / read more books / get up early)

評価のポイント

- let go of のあとに、名詞か ing の形を正しく使えたか。
- 手放したい習慣と、それにつながる来年の目標を言えたか。
- 全員の前で、聞こえる声で2文を言えたか。

つまづきへの手だて

- 語句が思い浮かばない生徒には、カードから選ばせる。
- ing の形が難しい生徒には、名詞（my smartphone at night / snacks）を使ってよいとする。
- 自分のことを話しにくい生徒には、架空のキャラクターになったつもりで話してよいとする。

発展

- 108の別の説（四苦八苦、12か月＋二十四節気＋七十二候）を英語で説明してみる。
- 基本セット p.7 の作文（This year, I want to let go of _____ because _____. / My wish for next year is _____.）を書く。
- 英語ページの会話で、Tom と Mei のやりとりを演じる。

使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第4段落）・会話と音声
- 基本セット p.7（作文）



4. カウントダウンで数字マスター

授業手順書（詳細版）／対象：小学校／15分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

ten から one までのカウントダウンと、one から twelve までの数を英語で楽しく言える。

準備

- 数字カード（1～12）
- 紙のブドウ（12粒×人数分。丸く切った紫色の紙）と、ブドウの房の台紙（1人1枚）とのり
- スペインの大みそか（真夜中の鐘に合わせてブドウを12粒食べる）の写真
- 時計の絵（12時を指したもの）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	3	時計の絵を見せ、「新しい年になる前、世界ではみんなで数を数える」と伝える。指を立てながら Ten, nine, eight... one! とカウントダウンを全員で練習する（2回）。	指を立てながら、英語でカウントダウンをする。	"It's almost midnight. Let's count down!" "Ten, nine, eight, seven, six, five, four, three, two, one!" "One more time, louder!"
展開1	8	スペインの写真を見せ、真夜中の鐘に合わせてブドウを12粒食べる習わしがあることを伝える。台紙と紙のブドウを配り、先生と一緒に One, two, three... と1から12まで英語で数えながら、1粒ずつはらせる。数え終わったら、隣の子のブドウを英語で数えて確かめ合う。	1から12まで英語で数えながら、紙のブドウを1粒ずつはる。隣の子と数えて確かめる。	"In Spain, people eat 12 grapes at midnight." "Let's make our grapes. Count with me. One, two, three..." "Eleven, twelve! Twelve grapes!" "Count your friend's grapes. How many?"
まとめ	4	全員で立ち、もう一度 ten から one までカウントダウンをして、最後に Happy New Year! という。ブドウの台紙を掲示する。	カウントダウンをして、全員で Happy New Year! という。	"Stand up. Let's count down together." "Three, two, one... Happy New Year!" "Let's put your grapes on the wall."

板書例

Countdown! 🕒

10 ten 9 nine 8 eight 7 seven 6 six
5 five 4 four 3 three 2 two 1 one
→ Happy New Year!

Spain 🇪🇸 : 12 grapes at midnight 🍇
1 one 2 two 3 three ... 11 eleven 12 twelve

評価のポイント

- ten から one まで、順番どおりに英語で数えられたか。
- 1から12まで、ブドウをはりながら英語で数えられたか。
- Happy New Year! を元気に言えたか。

つまずきへの手だて

- eleven / twelve がむずかしい子には、数字カードを見せながら先生と一緒に言わせる。
- カウントダウンでつまる子には、指を折る動作をつけてリズムで言わせる。
- のりづけに時間がかかる子には、先生が数を言い、子どもはブドウを置くだけにする。

発展

- デンマークで真夜中に椅子から飛び降りる習わしを紹介し、カウントダウンのあとに全員でジャンプする。
- 基本セット p.8 のなぞり書きで noodles / bell を書く。
- 基本セット p.3 のマッチング（grapes / bell / noodles）で語を確かめる。

使う教材

- 基本セット p.3（マッチング）
- 基本セット p.8（なぞり書き・ぬりえ）



5. 「創られた伝統」を考える

授業手順書（詳細版）／対象：大学／60分

Class _____

No. _____

Name _____

ねらい

除夜の鐘と紅白歌合戦の歴史をもとに、伝統とメディアの関係を英語で論じ、「伝統は古くなければ価値がないか」について討論し、身近な「意外に新しい伝統」を短いレポートにまとめられる。

準備

- 発展セットの英文（An Old Sound, Spread by New Technology）
- 紅白歌合戦の歴史の資料（原型は1945年12月31日のラジオ『紅白音楽試合』。『紅白歌合戦』第1回は1951年1月3日の正月番組で、第3回まで正月に放送。1953年12月31日に第4回を放送し、大晦日の番組として定着）
- 調べものの用の端末
- レポート用紙（約200語）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	10	発展セットの英文を読ませ、ラジオと除夜の鐘の関係を英語3文で要約させる（禅寺に始まったが明治時代にはほとんど忘れられていた／1927年からのラジオ放送が全国の家庭に鐘の音を届けた／地域の習わしが全国共通の体験になった）。invented traditions という語の意味を確認する。	英文を読み、ラジオと除夜の鐘の関係を英語3文で要約する。	“Read the passage. Summarize the link between radio and the bell in three sentences.” “When did the custom almost disappear?” “What happened in 1927?” “What does invented tradition mean?”
展開1	12	紅白歌合戦の資料を読ませ、正月番組から大晦日の番組になった経緯をペアで時系列にまとめさせる。端末で1つ以上の資料を確認させ、出典を書かせる。除夜の鐘と紅白の共通点（どちらも放送によって「全国の大晦日」の形になった）を考えさせる。	紅白歌合戦の歴史を時系列でまとめ、除夜の鐘との共通点を考える。	“Make a timeline of Kohaku with your partner.” “The first Kohaku was on January 3, 1951. When did it move to December 31?” “Check one more source and write it down.” “What do the bell and Kohaku have in common?”
展開2	20	論題 A tradition must be old to be valuable. で、賛成・反対に分かれて英語で討論させる（作戦5分、立論各3分、反論各2分、自由討論5分）。発展セットの This does not make them fake. や、騒音の苦情や人手不足で昼間に鐘をつく寺が出てきたことも論点として使ってよい。	伝統は古くなければ価値がないかについて、英語で討論する。	“The motion is: A tradition must be old to be valuable.” “Take five minutes to prepare.” “Opening speeches, three minutes each. Then rebuttals.” “Think about the daytime bell, too. Is it still a tradition?”
まとめ	18	身近な「意外に新しい伝統」の例を1つ挙げ、いつ・どのように広まったかを調べて約200語の英語のレポートにまとめさせる（例：七五三が今の形で全国に広まったのは戦後、など）。広まった理由（メディア・企業・交通など）と、それでも価値があると思うかを書かせる。出典を必ず示させる。最後の3分で数人に例を紹介させる。	意外に新しい伝統の例を調べ、広まった経緯と自分の評価を約200語のレポートにまとめる。	“Find one tradition that is newer than people think.” “When and how did it spread? Who helped it spread?” “Do you still think it is valuable? Why?” “Write about 200 words. Show your sources.”

板書例

Invented Traditions

Joya no Kane

Zen temples (long ago) → almost forgotten by Meiji → 1927 radio → national custom

Kohaku

1945 radio 『紅白音楽試合』 → 1951.1.3 first Kohaku (New Year show) → 1953.12.31 → New Year's Eve

"This does not make them fake."

Today : daytime bells? (noise / not enough people)

Motion : A tradition must be old to be valuable.

Report : a tradition newer than we think (200 words + sources)

評価のポイント

- 英文の要点（ラジオが習わしを全国に広めた）を正確に要約できたか。
- 討論で、除夜の鐘や紅白の事実を根拠として使えたか。
- レポートで、伝統が広まった経緯を出典にもとづいて説明し、自分の評価を述べられたか。

つまづきへの手だて

- 要約が難しい学生には、年（1927）と語（radio / national / shared）を使って3文を作らせる。
- 討論の準備に困るチームには、昼間の鐘の賛否から論点を考えるよう助言する。
- 例が見つからない学生には、このサイトのほかの行事の記事から、全国に広まった時期が書かれているものを探させる。

発展

- 発展セットの debate（昼間に除夜の鐘をついてよい）でミニ・ディベートをする。
- 浄土真宗の本山のように除夜の鐘をつかない寺もあることを調べ、伝統が一つではないことを考える。
- 英語ページの discussion（Many traditions are newer than we think. Does that make them less valuable?）で意見文を書く。

使う教材

- 発展セット（英文・quiz・debate）
- 記事の「紅白歌合戦はいつから？」「除夜の鐘はなぜ108回？」の節